

本年度の重点的な取り組み内容です

西浦では児童も年々減り、数年後には小中合築の学校となっていきます。また、少子高齢化の課題を抱える地域でもあり、西浦のまちの担い手となる子どもたちへ話す思いは大きいと捉えています。

そこで西浦小学校では、地域の「人・こと・もの」に目を向け、未来の西浦を見据えた学習の展開を下記のように計画しています。子どもたちが、地域の魅力に触れるとともに、地域の課題を見つけ解決策を考えたり、解決のために自らできることを行動に移したりしていく。そして活動を通し、地域の一員としての自覚を深め、地域を愛する心が育まれることを期待するものです。

◆各学年の取り組み（予定）

○1年「西浦たんけんたい」

身近な学校から学校のまわり、学区に住む人へ視野を広げながら「人・こと・もの」と関わっていく。学校の裏山や学区の海へ遊びに出かけ、ゲストティーチャーに野鳥や木の名前を教えてもらったり、サンドアートを学んだりする。自然とのふれあいを通し地域への愛着を深める。



○2年「西浦のまちたんけんたい」

西浦学区で働く人にたくさん出会い、人の営みや暮らしに目を向ける機会とする。畑で農作物を育てる人、神社や寺を守る人、小売業をしている人などを中心に、西浦に住む人とたくさん関わる。小麦農家と豆腐づくり名人に「小麦・豆腐にかける思い」や「西浦のよさ」を聞いたり、収穫や作り上げることへの喜びを味わったりする活動を通し、地域の人とのつながりを体感し、先人の知恵に感謝する気持ちを育てる。



○3年「海からのおくりもの」

漁協の協力のもと、アマモの種の植え付けのほかに、西浦の海での潮干狩りや釣りを試みる。さらに、PTAの方の協力を得ながら自然からの恵みを味わう。これらの活動を通し、自然への畏敬の念や地域をより大切にしようとする心を育む。



○4年「海への恩返し」

漁協や生命の海科学館の方達から、西浦に生息する漁貝類について学んだ後、海が抱える問題について取り上げ、問題の原因や自分たちにできることは何かを考える。継続的な海岸清掃活動と地域へお呼びかけ活動などを通し、地域の一員としての自覚を深め、地域のために働こうとする気持ちを育てる。



○5年「高齢者と共に生きる」

「地域の高齢者」にスポットを当て、「年を取ること」「高齢化問題」「お年寄りの英知」などについてふれていく。西浦敬老会の人たちとの交流（ラジオ体操、盆踊り、ゲートボール大会）をするなかで、お年寄りが子ども達に望むことについて知り、自分たちがお年寄りにできることを考え実行することを通し、地域の人に役立つことの意義を味わう。



○6年「西浦のまちを守る」

地震等の自然災害が起こったとき、本校が避難所になる。高齢者が多いまちで高学年の子どもたちができることは何かを探る。市役所防災課の人や総代さん達と協力して「防災マップ」づくりや「避難所開設から運営」において子ども達ができることを試演する。活動を通し、地域の一員としての自覚をより高め、地域に役立つ人になろうとする心を育む。



学校教育活動に、ご理解ご協力をお願いします。